【商業科】　２年次　【選択】科目　「ビジネス情報」授業のシラバス

１　概要

教科名	商業	**科目名**	ビジネス情報	**単位数（コマ数）**	３（１１７）
科目の目標	情報通信ネットワークの導入やソフトウェアの活用に関する知識と技術を習得させ、情報を効率的に処理することの重要性について理解させるとともに、ビジネスの諸活動においてコンピュータを適切に運用する能力と態度を育てる。				
教科書（出版社）	ビジネス情報　新訂版（実教出版）		**副教材（出版社）**	平成３１年度版　全商情報処理検定模擬試験問題集ビジネス情報２級（実教出版）	

２　学習の方法

⑴　予習について

教科担当の先生の指示に従ってください。

⑵　授業について

毎時間の授業を大切に集中して取り組んでください。疑問点は遠慮なく質問してください。

教科担当の先生の指示に従い、授業で使用するものを確認してください。もし忘れた場合は、授業が始まる前に教科担当の先生に申し出てください。この授業で使用するファイルは「プラスチックの緑」です。

⑶　復習について

学習した内容に関する用語やしくみなどは、練習問題や模擬問題を解くことで確認をしてください。

確認テストや小テストの結果は積み重なり、評価の材料の一部となります。しっかりと対策学習をしてください。

〈学習アドバイス〉

とにかく復習あるのみ。復習を万全にして得意科目にしてください。毎時の積み重ねが結果につながりますので、日々の授業を大切に取り組んでください。

３　評価について

⑴　評価の観点

観　点	趣旨
①　関心・意欲・態度	ビジネスの諸活動において、情報を主体的、積極的に活用し、将来、職場における情報活用のリーダーとなる意欲と態度を持っている。
②　思考・判断・表現	適切な手段を用いて情報を収集・処理したり、要求に応じた適切なシステムを開発するなどの思考力・判断力・表現力を身につけている。
③　技能	ビジネスにおける情報活用に必要な、情報の分析手法、システムの開発、ネットワークの構築などの技能を身につけている。
④　知識・理解	ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割を理解するとともに、ビジネスにおける情報活用を実践するために必要な知識を身につけている。

⑵　評価の方法（以下観点①～④は「⑴　評価の観点」と対応する）

評価材料 / 観　点	割合	定期考査・確認テスト		確認テスト	提出物	課題
①　関心・意欲・態度	１０%	△	その分野が日常生活にどのように活かされているかを問うことがあります。			○
②　思考・判断・表現	２５%	◎	ビジネスにおける情報活用について、システム開発やネットワーク構築の実際をふまえて考察し、的確に表現できるか。	○	○	
③　技能	４０%	◎	全商情報処理検定２級レベル	○	○	
④　知識・理解	２５%	◎	全商情報処理検定２級レベル	○	○	

〈担当者からのメッセージ〉

全商情報処理検定２級取得を目指します。
授業をしっかり受けてください。
家庭学習の習慣をつくりましょう。

【商業科】　２年次　【選択】科目　「ビジネス情報」授業のシラバス

４　授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考査等
前期 4	ビジネスと情報	9	・情報化社会とビジネス	④	ビジネスと情報の関係、企業において利用されている業務システムを学び、ビジネスにおける情報活用の基礎的な知識を理解できる。	
5		12	・ネットワークとビジネス	①	ネットワーク社会における新しいビジネス形態の進展やその課題について主体的に学ぶことができる。	小テスト
6	表計算ソフトの活用と分析	9	・グループ集計 ・クロス集計 ・ソルバー	① ② ③	技術を理解し、身に付けることができる。 各機能をどのような場面で使えばよいかを判断できる。 各機能を用いて正しい操作ができる。	前期中間考査
7		12	・ゴールシーク ・散布図・回帰分析 ・ヒストグラム	④ ②	各機能を理解できる。 条件に応じてどのグラフが適切であるか判断できる。	小テスト
8		6	・販売情報分析	③	データを加工して必要なグラフを作成できる。	前期期末考査
9	情報処理に関する知識	9	・通信ネットワーク ・情報モラル ・セキュリティ	④ ①	それぞれのグラフの特徴を理解できる。 知識を理解し、身に付けることができる。	
後期 10		15	・データベースの役割と活用方法	②	知識・技術を活用し、適切に分析ができる。	小テスト
11	データベースソフトウェアの活用	15	・データベースの作成 ・SQL での操作	① ② ③	データベースソフトの操作方法を意欲的に身につけることができる。 データベースとその役割、活用方法について考えることができる。 データベースソフトを用いて、基本的なデータベースを作成できる。また応用できる。	後期中間考査
12	ソフトウェアを活用したシステム開発	9	・システム開発の基礎 ・アルゴリズムの基礎	④	SQL を理解し、簡単な操作ができる。	小テスト
1		6	・表計算ソフトウェアによる開発 ・データベースソフトウェアによる開発	④	システム開発における代表的な開発モデルと開発手法について、基礎的な知識を理解できる。	全商情報処理検定
2		9		①	ソフトウェアの特色を生かした実習に積極的に取り組み知識・技術を身につけることができる。	後期期末考査
3		6 計 117				

※　観点別評価①は関心・意欲・態度、②は思考・判断・表現、③は技能、④は知識・理解を表しています。
※　授業計画は進度により前後することがあります。